



資料館報

第 46 号

編 集 令和 8 年 3 月 31 日

発 行 高森町歴史民俗資料館
長野県下伊那郡高森町
下市田 2243
電話 (0265)35-7083

印 刷 (有) 雨 宮 印 刷
電話 (0265)22-6027



目 次

○あいさつ	2	●町民ギャラリー展	
○令和 7 年度事業報告	3	○親子体験教室・小正月飾り作り	9
○資料館委員会等の記録	4	○学校・地域との連携	9
○「時の駅」講座	5	○古文書・土器整理、清掃作業	10
○令和 7 年度企画展・特別展	6~8	○研究調査報告	11~15
●寺社に奉納された刀剣		○令和 7 年度の記録	16~17
●戦後 80 年 戦争体験の継承について考える		○令和 7 年度資料寄贈者	18
●大槻四郎寄贈作品展		○お知らせ	18
●天竜川に架かる橋の歴史		○編集後記	18
●ひな人形と美人画			

◎ごあいさつ

高森町長 壬生 照 玄



1月に行われました町長選挙におきまして、三期目の重責を担わせていただくことになりました。町民の皆さまにはこれまで同様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

歴史民俗資料館「時の駅」には、日本最古の銅製鑄造貨幣「富本銭」、山吹藩の国学「本学神社の社宝」、全国的にも珍しい縄文時代中期に祭祀に使われたと言われる「両面顔面取手」など、古い民具や考古遺物がたくさん収蔵されています。

日本では百年以上たつモノは「付(つく)喪神(もがみ)」という神になると言われています。長く使われてきたモノにたいして敬意と愛着を持って「神」として扱うのが、先人たちの知恵だったのでしょうか。現在、館内のあちこちで「付喪神様」が皆さまのご来館をお待ちしています。「館内に住む付喪神様。君はいくつ見つけられるかな？」探しながらモノたちの声に耳をすませていただきたいと思います。

このように資料館では、館長を中心に職員の皆さんで様々な企画を考え、定期的に企画展を実施している他、郷土の歴史を学ぶ「時の駅講座」や子どもたちも楽しむ事ができる体験会なども行い、生涯学習の場、ふるさと学習の場として、町民に愛される資料館を目指し日々活動をしています。

多くの町民の皆さまが、「時の駅」で学び、愛郷心を育てていただけることを願っています。

高森町教育長 高野 正 延



資料館に企画展を見に行った時のことです。数人の4年生の子どもたちが、何やら忙しそうに館内を歩き回っていました。何をしているのか尋ねると、神様を捜しているというのです。不思議に思って、職員さんに訊いてみると、付喪神を捜しているとのこと。付喪神とは、長く使われた道具や器物に宿る神様のことです。学芸員さんが館内の道具類などをモチーフに神様のイラストを描き、その道具が展示されている所に置いてあります。その展示場所を見つけて、説明文を読み、職員さんの質問に見事正解すると、その付喪神のカードがもらえるという仕組みです。そのためには、まず神様の元になっている土器や矢じり、馬具などのある場所を突き止めなければなりません。子どもたち

が小走りに館内を見て回っていたのは、そのためだったのです。

そうした成果もあり、令和7年度の1月までに、休日や放課後に来館した町内の子どもたちの人数は1,387人と、前年度の合計409人と比較すると3倍以上に増えています。資料館ではこれからも、いろいろな企画を計画していきます。多くの町民の皆様が足を運んでくれることを願っています。

資料館運営委員長 吉田 正 治



これからの世の中どうなっていくのだろう。世界的にも混沌とし、日本国内においてもゆっくり落ち着いて物事を見つめている場合ではない状況が続いている。

そんな中であって、私は今まで歴史民俗資料館時の駅へ足を運んでもらうにはと考え、これまで提案してきた。過去を学ぶことにより、人間のこれからの生き方を教わり、活かすことができる。先人の尊い歩みを今後活かすこともできると…しかし、今を生きる我々が時代遅れになっていないか。

今の世の中をみれば、時代と共に歴史の歩みも変わってきている。アナログからデジタル、そして今はAIの時代。過去に留まらず、未来を予見し、提言していくことが大事な使命とはいえ、生成AIによって、その答えが瞬時に返ってくる時代に…。さらにメディアの中心がネットへと移っている。

このような時代であって、歴史民俗資料館の価値は一体何なのだろう。資料を残すことの意味、そこから学ぶことの意味も、音声や映像、AI機器が時代の変遷を伝えていくのであろうか。

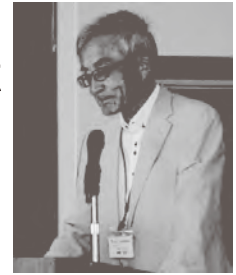
全てのことが今、岐路に立たされている気がしてならない。

令和7年度事業報告

館長 塩澤元広

高森町歴史民俗資料館「時の駅」では町内外の多くの方々にご利用頂きますとともに厚いご支援を賜り誠に有難うございました。

ここに令和7年度の事業報告をさせていただきます。



(1) 企画・特別展

- | | | |
|-----------------------------------------------------------|-------------|--------|
| ①企画展「寺社に奉納された刀剣」 | 4月27日～6月8日 | 1,009名 |
| ②特別展「戦後80年 戦争体験の継承について考える」 | 6月29日～8月31日 | 1,373名 |
| ③特別展「大槻四郎寄贈作品展」 | 9月7日～10月12日 | 612名 |
| ④特別展「天竜川に架かる橋の歴史」 | 11月2日～12月7日 | 825名 |
| ⑤企画展「ひな人形と美人画」 | 2月28日～4月10日 | 1,046名 |
| ⑥町内小中学校作品展(中学校10月28日～11月20日、南小11月22日～12月14日、北小1月7日～2月18日) | | |

(2) 資料館講演会「時の駅」講座

- | | | | |
|-------------------------------|-------|---------------------|-----|
| ①第1講座「青少年義勇軍となった少年の日記と『市田教育』」 | 7月5日 | 飯田市歴史研究所調査研究員 原英章氏 | 23名 |
| ②第2講座「下伊那の俳句結社」 | 8月30日 | 飯田市歴史研究所特任研究員 竹村雄次氏 | 16名 |
| ③第3講座「高森町堂垣外遺跡の発掘調査から」 | 11月8日 | 高森町歴史民俗資料館主事 竹内稔氏 | 21名 |

(3) 親子体験教室

①夏の親子体験教室(教委ブンカザイルキッズ連携も含む)

- | | | |
|------------------------------------|-----------|-----|
| ・第1講座「勾玉づくり」・第2講座「土器づくり」 | 7月26日(土) | 26名 |
| ・第3講座「富本銭レプリカ」・第4講座「まゆから糸取り、人形づくり」 | 7月27日(日) | 19名 |
| ・第5講座「トンボ玉づくり」 | 8月3日(日) | 16名 |
| ・土器の野焼き | 10月13日(月) | |

②夏のナイトミュージアム

- | | | |
|-------------------------|---------|-----|
| ・夏の小正月飾り作り体験教室 餅つきと飾り作り | 8月1日(金) | 26名 |
|-------------------------|---------|-----|

③小正月飾り作り体験教室 餅つきと飾り作り

- | | | |
|--|----------|-----|
| | 1月12日(月) | 30名 |
|--|----------|-----|

(4) 「大人の体験講座」

- | | | |
|----------------|-----------|-------------|
| ・「七夕の梶の葉飾り作り」 | 7月12日(土) | 6名 |
| ・「いろいろ端で楽しむ昔話」 | 10月18日(土) | 話者6名、聴講者20名 |
| ・「トンボ玉作り」 | 3月7日(土) | 15名 |

(5) 古文書研究会

- ・毎月第3木曜日に学習会を開催した。
- ・2月22日(日)に会員による特別研究会を行った(高森町下市田の渡船について)。参加者32名

(6) 高森町史を読む会

- ・毎月第4木曜日に学習会を実施した。
- ・1月31日(土)に青木隆幸氏「飯田城その日その日番外編～殿の食卓にお邪魔する～」の特別講演会を行った。参加者58名

(7) 委員会の活動

- ・資料館運営委員会 資料館の運営について協議 3回開催(他に小正月飾りで1回)
- ・資料館調査委員会 町内にある石造物の再調査を行う 5回開催(小正月飾り作りへも参加)
- ・資料館活用委員会 年3回 小中学校・図書館と、資料館活用方策等について協議

(8) 学社連携事業 資料館と学校が連携して授業を実施した。(P9参照)

(9) その他の取り組み

- ①蚕の飼育・大正月飾りは例年通り行った。
- ②古文書整理作業は、山吹「倉田家文書」、吉田「竹村家文書」の整理を行った。
- ③刀の手入れ作業、「刀剣が語る歴史研究会」運営(井村博久氏)
- ④初めて小学校へ入学した家庭に冊子「高森の人」、小学5年生に「文化財マップ」を寄贈した。

(10) 町民ギャラリーの活用

- | | | |
|----------------------|-------------|--------|
| ・「昭和をかざる切手展(2)」 | 6月15日～7月20日 | 742名 |
| ・「『シリーズ切手』が語る日本展(1)」 | 1月18日～2月22日 | 1,065名 |

(11) 入館者数8,158名(昭和54年開館から累計299,870名)

見学はもちろん、多くの団体に施設を利用していただいた。(P16,P17参照)

資料館 委員会等の記録

1. 資料館運営委員会

〈委員〉

吉田 正治 北沢 彰利
北原 みどり 宮原 祐敬 中平 榮子

〔運営委員会の主な活動〕

○定例委員会4回

- ・資料館「時の駅」の運営に関わりさまざまな提言をした。また、夏休み親子体験教室、小正月飾り作り教室の指導も行った。

2. 資料館調査委員会

〈委員〉

(山 吹) 山路 文夫 湯澤 弘典
(吉 田) 中塚 敏彦 中塚 武仁
(下市田) 唐木 孝治 手塚 浩司
杉田 洋一
(上市田) 中平 明夫
(牛 牧) 林 治巳
(大島山) 佐々木 一寿
(出 原) 宮下 剛

〔調査委員会の主な活動〕

○定例委員会5回

- ・「高森町の石造物」について、文献に基づき現地調査をした。
 - ・小正月飾り作りでは、飾りつけの指導をした。
- 委員研修視察旅行
- ・運営委員会と共に長野県立歴史館、長野市博物館で石造物調査について研修をした。

3. 古文書研究会

〈組織〉

会 長 畑中 定喜 (出 原)
副会長 宮下 明子 (中川村)
会 計 中山 進 (飯田市)
監 事 矢澤 篤 (上市田)
講 師 吉澤 章 (飯田市)
顧 問 福島 壽子 (下市田)
手塚 勝昭 (吉 田)
幹 事 塩澤 元広 小林 和子 (資料館)
会 員 21名 (内7名は町外の会員)

〔活動〕

○定例会 (毎月第3木曜日)

- ・高森町旧家に関する古文書や研究会発行の月報に掲載されている古文書を、講師の吉澤氏に解説していただき読み深めた。

○館外研修 (9月19日)

- ・善行寺街道の南半の要地を訪ね研修をした。

○古文書特別研究会 (2月22日)

- ・今年度は昨年同様の研究会方式でおこなった。高森町下市田の渡船について、下市田区の皆さんも交えて、古文書から分かったことを検討し合う形式で学習を深めた。

4. 高森町史を読む会

〈組織〉

会 長 松上 清志 (下市田)
副会長 羽生 宏敬 (下市田)
監 事 手塚 勝昭 (吉 田)
会 計 小林 和子 (資料館)
会 員 21名 (内1名は町外の会員)

〔活動〕

○定例会 (毎月第4木曜日)

- ・11年目を迎えた町史を読む会では、「町史上巻後編 学芸・教育」の項目を読み進めた。現地学習は、前澤健氏を講師に阿智村園原、三穂・松尾の小笠原氏関連の史跡・資料館を巡り研修を深めた。

○特別講演会 (1月31日)

- ・青木隆幸氏を講師に迎え「飯田城その日その日 番外編～殿の食卓にお邪魔する～」について講演を行った。

5. 資料館活用委員会

- ・高森南小学校、同北小学校、高森中学校、高森町図書館の関係職員で構成し、年3回、資料館の有効活用について検討した。各学校の夏休み中の研修に当館見学を取り入れていただいた学校もあった。

第26回“戦後80年”の「時の駅」講座

今年度は下記のような日程で、「時の駅」学習室を会場に行いました。時の駅講座の講演記録は、資料館または資料館のホームページにあります。

第1講座『青少年義勇軍となった少年の日記と「市田教育」』

7月5日 23名受講 講師：飯田市歴史研究所調査研究員 原 英章 氏



まず青少年義勇軍となった少年、「松島格次」と証拠の日記の紹介をし、義勇軍の説明と送出先が長野県なかでも下伊那が最も多く、犠牲者も多かったことに言及した。次に第三次鳳鳴義勇隊小林中隊に所属した松島格次が、どのような気持ちで入隊し、その心情に市田教育がどう関わったかを日記を通して考察した。

市田小学校から大いに期待されて義勇軍に入隊した格次は、坂井校長から和歌を贈られ、義勇隊の「優等生」となったが、訓練中に頭部に外傷を負い、一時帰国する。「お国のため」に義勇軍に志願し、満州へ渡ったが、失意のまま戦後の社会へ再出発した。だが、事故の治療が原因で47歳で亡くなる。発表の最後に原氏は「松島格次もまた戦争犠牲者の一人であったといえる。」と結んだ。

第2講座『下伊那の俳句結社』

8月30日 16名受講

講師：飯田市歴史研究所特任研究員 竹村 雄次 氏



江戸期、桜井蕉雨が俳諧サロンを形成し、幕末には平田国学を広げる「義雄集（まめおのつどい）」が生まれ、ネットワークが形成された。句会の文化サロンでは、座を設定することで異業種間の交流ができ、懇親会的な会での人間関係が深まった。

明治期、正岡子規以後、新派俳句が起ると郵便や雑誌などを利用することで、座を設定する必要がなくなり、互選の楽しさ平等感が生まれた。その中で旧派が続いたのは宗匠が努力し、尊敬の対象にもなり、賞金や賞品があって参加者が楽しい会であったからではないか。

第3講座『高森町堂垣外遺跡の発掘調査から』

11月8日 21名受講 講師：高森町歴史民俗資料館主事 竹内 稔 氏



平成7年以降発掘された堂垣外遺跡の調査結果をもとに、弥生から平安時代にかけての特徴的な遺物を紹介した。

殊に土器に墨で文字が書かれた「墨書（ぼくしょ）土器」が顕著に発見されたことから、識字層がいたとされる座光寺の恒川遺跡との関わりを考察した。まとめとして、古代の馬骨発見例の多い飯田下伊那の状況と古代の役所「郡衙」に近い堂垣外遺跡の特色を整理し、天武天皇が造らせた富本銭がなぜ高森で発見されたのかの道筋を想定した。

令和7年度企画展・特別展

企画展『寺社に奉納された刀剣』

4月27日～6月8日 入館者1,009名

今年は、資料館の「刀剣が語る歴史研究会」の皆様の努力下、寺社に奉納された刀剣類を展示しました。恒例となった刀剣展ですが、地元の寺社にも数々の刀剣が残されており、松尾多勢子ゆかりの短刀や徳川家にゆかりのある阿智村承久寺の槍・薙刀に興味津々の方もおられました。



特別展『戦後80年 戦争体験の継承について考える』

6月29日～8月31日 入館者1,373名

戦後80年を迎え、戦争を直接体験した人が少なくなり、戦争体験の継承や戦争遺跡の保存が課題となってきています。そこで、高森町に焦点を当て、町と戦争のかかわりや戦後平和をめざした町の取り組みについて展示しました。

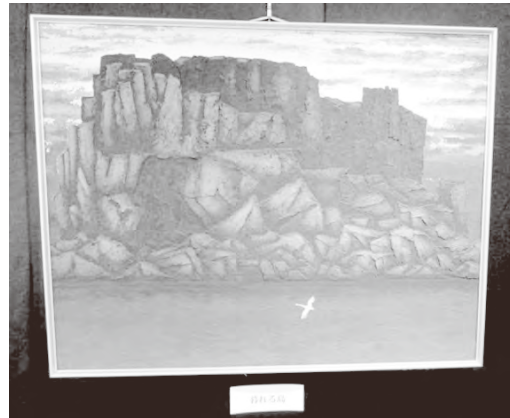
町民が寄贈してくれた遺品や戦争中の写真を展示し、戦没者名簿から終戦直前に多くの人々が亡くなったことを資料で示しました。また戦後、いち早く平和宣言を出し、広島への平和バスの活動が35回にわたって続いてきた成果を、参加者数や冊子・映像で紹介しました。特に「市田国民学校日誌」の終戦の日の切実な記述に感動する見学者が多くありました。夏休みに入った高森北小学校の職員による研修や資料館活用委員の皆さんの研修は、子どもたちへの継承につながるといえます。



特別展『大槻四郎寄贈作品展』

9月7日～10月12日 入館者612名

御前崎市の池田那緒美様から大槻四郎画伯の絵画3点、掛軸4幅が寄贈されました。その作品を多くの皆様にご覧いただきたいと考え、寄贈作品展を開催しました。中でも「暮れる島」は大作で、暮れ行く島に向かって飛ぶ一羽の白い鳥は、落ち着いた色調と幽玄な雰囲気が漂う印象的な作品です。掛軸も、大槻作品らしいテーマで、ユーモアも感じられる佳作が展示できました。



特別展『天竜川に架かる橋の歴史』

11月2日～12月7日 入館者825名

3回目の特別展は、近々（令和9年3月）新たに「竜神大橋（新万年橋）」が供用開始になるのを機に、高森周辺の天竜川に架かる橋が、どのような経緯で掛けられていったかをひも解く展示会を企画しました。

天竜川に橋が架かる前は、渡船が使われていましたが、大水が出ると何日も舟止めがあり、通婚圏にも影響を及ぼす東西交通の障害となっていました。そのため定橋の建設は兩岸住民の悲願でしたが、現在の豊丘村に生まれた片桐良弥が資材を投じて、明治42年明神橋を架設しました。

明治40年代にはつり橋の建設ラッシュが起りましたが、万年橋は山吹村の柏原市藏が建設委員長となり建設しました。債務を個人で引き受け返済に10数年をかけました。天竜川に架かる橋には東西の往来に人生をかけた人々がいたのです。



企画展『ひな人形と美人画』2月28日～4月10日 入館者1,046名

恒例の「ひな人形と美人画」展ですが、今回は、公民館美人画教室の皆さんの作品が6点展示されました。

また布喜ふきの会の皆さん製作のつるし雛の展示とコラボ企画の「春駒手作り体験」を開催しました。

痛みがひどかった大洞家の内裏雛1組と随身の修復ができ、展示できたのも成果でした。



『町民ギャラリー展』小中学生の作品展示(10月～2月)



高森中学校生徒作品



高森南小学校児童作品



高森北小学校児童作品



『昭和をかざる切手展(2)』



『「シリーズ切手」が語る日本展(1)』



『大人の体験講座』

今年も「大人の体験講座」を3回行いました。「体験の楽しさは大人も同じ」と感じるひと時でした。



- ・「七夕の梶の葉飾り作り」(7月12日:6名)
- ・「いろいろ端で楽しむ昔話」(10月18日:26名)
- ・「トンボ玉作り」(3月7日:15名)

夏の親子体験教室と小正月飾り作り体験教室

今年の夏の親子体験教室は、5講座(富本銭づくり・繭から人形づくり・勾玉づくり・土器づくり・トンボ玉づくり)を7月26日・27日・8月3日の3日間で計61名の皆さんに楽しんでいただくことができました。

10月13日には、作った土器の野焼き体験も行いました。

小正月飾りづくり体験教室(1月12日)では、前日の雪にもかかわらず、30名の親子、16名の運営・調査委員の皆さんが参加し、餅つき、もち花・まゆ玉づくりを体験することができました。



『ナイトミュージアム』始まる！



資料館の「付喪神」が定着する中、「夜の資料館ではどんな体験ができるのか？」を問う声に押されて、今年度初めて「ナイトミュージアム」を開催しました。町のお話グループ「たんころりん」の皆様から、高森にまつわる「怖い話」を聞いた後、子どもたちは2人組で館内を巡り、「付喪神」にまつわる展示物の変化を探して回りました。「怖かったけれど、楽しかった」の声が多く聞かれました。

学校・地域との連携

小中学校を中心に、今年も多く各学校で校外学習・出前授業、職員研修等に利用していただきました。

- ①高森北小学校4年生親子レク 勾玉作り
- ②高森北小学校クラブ活動 7回
- ③高森北小学校職員研修 戦後80年展
- ④高森北小学校3年生 高森町の鳥観図
- ⑤高森南小学校4年生 市田柿の学習
- ⑥浜井場・追手町小学校3年生 社会見学
- ⑦高森北・南小学校6年生 歴史学習
- ⑧高森南小学校2年生 養蚕の学習
- ⑨高森南小学校5年生 総合学習
- ⑩高森南小学校3年生 昔の暮らし体験
- ⑪高森北小学校3年生 昔の暮らし体験
- ⑫高校生・大学生インターンシップ
- ⑬「小正月飾り作り」中学生ボランティア
- ⑭県外修学旅行生

◇そのほか「エコール親愛」・「みらい福祉会」の皆さんが勾玉づくり・火起し体験等を行いました。
 ◇資料館を毎月の定例会場として、短歌、俳句、源氏物語、音読など多くの団体にご利用いただきました。
 ◇CATVを通して「時の駅によろこ」(2か月毎)を放送し、町民の皆様にご紹介しました。
 またNHKの北信越CATV番組で「付喪神キャラクター」についてアピールしました。



←高森南小学校6年生
富本銭の学習



高森北小学校4年生
親子レク勾玉作り→

資料館活動の様子

①古文書整理作業

資料館に寄託された文書整理を行っています。現在は、山吹倉田家文書・吉田竹村家文書を整理しています。目録をもとに古文書研究会での史料研究など今後の活用が期待されます。2月22日には古文書特別研究会が開かれ、江戸時代の渡船場・土橋について研究を発表し合いました。



②土器整理作業

発掘された土器の復元作業や図面づくりを進めています。今年度は下市田：北原遺跡(積善会館付近)・吉田：井上遺跡の弥生時代の遺物整理を行いました。整理作業員のお二人は、主体的に整理を進めてくださり、夏休み親子体験やブンカザイルキッズの活動にも協力頂いています。

③清掃作業

毎月2回、館内を隅々まできれいにしています。また、休憩の間に聴く昔の高森についての話やより使いやすい館へのご意見は参考にさせて頂いています。

研究調査報告 天竜川に橋を架けた二人の男

塩澤 元広

一 はじめに

今年度の秋の特別展では、「天竜川に架かる橋の歴史」というテーマで橋のことを取り上げました。そして高森町に架かる明神橋と万年橋のことを調べているうちに、この地域において天竜川に架かる最初の定橋である2つの橋ができたころ、二人の人物が大きな働きをしていることがわかりました。今回はその二人について取り上げて報告します。

二 明神橋の架橋

天竜川の渡船の中でも明神の渡しは特に交通量が多い渡しであり、また明治33年(1900)の道路田村線の改修はこの渡しの重要度をさらに高めました。渡船のように乗降に時間がかかったり水流の変化に影響されるような不便をなくし、常時すぐに渡れる橋を願う声は早くからありました。

明治41年(1908)田村の片桐良^{りょうや}弥は、平沢久太郎(田村)、北林清太郎(下市田)、手塚文右衛門(下市田)らと架橋の計画を立てました。そして木製のつり橋の設計を伊賀良の矢沢四郎に依頼、本多英(田村)が工事責任者になって同年に着工しました。北林が満州へ行ってしまったこともあり、工事費用は片桐がほとんど出しました。総工費は1万8,000円余でした。

しかしこの橋には渡船業者の反対がありました。当時、舟株仲間が神稲村に9名、下市田村に9名おり、2艘の舟を船頭たちが交代で動かし、20人近くの者が継続営業の許可を得ていました。この渡しは交通量が多かったので相当な利益

を上げており、渡船業者は生活権を主張して強硬に反対しました。また彼らが自分たちの主張の根拠にしたことの1つが、県から営業の許可を得たのは自分たちのほうが先だということでした。片桐良弥たちは渡船業者と粘り強く交渉をかさね、舟2艘代200円と権利金200円を支払うことで示談が成立しました。

このように明神橋ができたのは、費用のほとんどを出し、また渡船業者との紛争の示談も成立させた片桐のおかげとあってよいと思います。



初代明神橋(当館所蔵)

三 片桐良弥

安政3年(1856)9月5日田村(豊丘村)に生まれました。父をついで明治16年(1883)20人取りの器械製糸工場を経営、これを182釜を有し230人が働く大工場に成長させ、郡

内屈指の実業家となりました。さらに大正6年(1917)には、三重県一志郡に64釜を有する工場を建設しました。

片桐は明治42年(1909)に私財を投じて明神橋を架設、大正3年には神稲電気をおこし、虻川上流に村営の発電所を建設し村内に電力供給をはかりました。また大正7年には竜東索道株式会社の社長となって、遠山谷と喬木村小川を結ぶ索道を建設し、遠山谷の木材などの物資の輸送に努めました。鉄道が伊那谷北部に通ったのはこの時期ですが、最近の研究では、伊那電が最初に考えていたルートは段丘上段(現在の上県道のあたり)

片桐良弥(『神稲人物誌』)



り)を通そうとしたのですが、竜東地区と段丘下段の人たちが現在の段丘下段のルートにするよう運動を起こしたことがわかってきました。そしてこの運動の中心となったのが、神稲村などの竜東の人たちであり、それを主導したのが片桐良弥だったということです。このように片桐良弥は、とくに竜東地区の経済発展に大きな役割をはたした実業家でした。

大正4年に郡会議員に当選、同8年9月には県会議員に当選し、のち県参事会員となるなど政界でも活躍しました。また橋や堤防などのインフラだけでなく、神社・仏閣、学校などへの寄付もさかんにおこないました。

大正9年7月30日逝去(65歳)。

四 片桐良弥と鉄道の誘致

鉄道が伊那谷北部に通ったのはこの時期ですが、先述したように、伊那電気鉄道株式会社(伊那電)が最初に考えていた鉄道のルートは、現在走っているルートとは異なり段丘上段(現在の上県道のあたり)を通るものでした。そのほうが距離が短く起伏も小さいので、建設経費が少なくすむからです。これに反対して、現在のルートである段丘下段のルートにするよう運動を起こした人々がいました。それは段丘下段や竜東地区に居住する人々でした。彼らは、段丘下段が盆地の中央部であり、人口や工場などはそこに多く集まっていることなどを主張して、鉄道を持ってこようとしたのです。

大正3年(1914)7か村の代表38人が神稲村に集まり、運動の組織作りを行いました。まず運動を中心となって行う専務委員を5人選出しました。選ばれたのは、片桐達治(神稲村村長)、今村禄七郎(座光寺村)、片桐良弥(神稲村)、芦部丑太郎(河野村)、矢澤豊之助(大島村)の5人でした。竜東と竜西のバランスをとったのですが、神稲村だけ2人おりました。そして運動の事務所は神稲村役場におかれしました。さらに運動の経費は各村で分担して負担することになったのですが、どの村も均一ではなく多少があり、中で神稲村が20円で最多でした。これらのことから、この運動の中心となったのが、神稲村の人たちであることがわかります。そしてそれを主導したのが片桐良弥だったのです。

彼らは陳情書や意見書を作成し、県や伊那電へ提出しました。さらに片桐良弥が代表し

て辻社長や専務の伊原五郎兵衛と面談したりしました。南信新聞は、大正6年(1917)4月に下線の敷設を希望する人々が神稲村役場に集まって集会を開いたとき、「片桐良彌氏は単独で五千元までの喜捨を辞せずと、ものすごい鼻息という。」と伝えています。実際にその「喜捨」があったかどうかはわかりませんが、同盟会の中で神稲村の負担がきわだつて多いのは、片桐良彌の個人負担が多く含まれていたのかもしれませんが。ちなみに片桐は大正7年4月ころから病気になったようで、同盟会の運動に名前がでてこなくなります。おそらく病に伏せていたのでしょう。そして大正9年7月30日、対岸を走る伊那電を見ることなくこの世を去ります。片桐は天竜川に橋を架け、さらに鉄道を天竜川の近くに呼び込むことで、竜東と竜西の物流を促進することに生涯をかけた人でした。誘致運動の立ち上げや初期において、彼が運動を主導したことはまちがいないといえます。

五 万年橋の架橋

万年橋は、明治40年(1907)10月着工し、明神橋と同じ42年(1909)4月竣工となりました。明神橋とこれまた同じ木製のつり橋でした。総工費5,500円。その内訳は、渡船の舟株を持っていたのが両村で30人で、1株につき50円出費することとし30人なので30株1,500円。残りは借金が4,000円で計5,500円というものでした。当時は玄米1俵3円くらいでしたから50円でも大金でした(16.6俵。現在白米5キロは約4,000円なので、1俵60キロで16.6俵は996キロ。現在で約80万円となります)。

建設の委員長は柏原市蔵(山吹村、屋号「川端」)で、副委員長が寺沢安太郎(山吹村)、滝川丈太郎(河野村)の2人でした。橋が永久に保つように」と願いをこめて、「万年橋」と名づけられました。



万年橋の架設作業を行うとび職の職人たち

六 万年橋と柏原市蔵

橋銭をとって借金の返済にあてようとしたのですが、なにしろ借金が多額であったので、1年後でも元金はおろか利息分の返済もおぼつかないありさま。橋銭は人一人2銭、人馬で3銭、これではどうてい追いつけません。今後の見通しが立たず、橋を壊そうという意見も出て仲間割れの状態になりました。しかし柏原市蔵は、貸してくれた人たちを裏切ることにはできないと債務を一人で引き受けました。農工銀行から4,500円を借り入れ、そのうちの500円は個々で借りた借金の後始末に使い、返済しました。その結果、橋は柏原個人のものとなりましたが、その借金の返済に10数年かかりました。

このように苦勞して架けた橋でしたが、10余年後の大正8年（1919）8月15日、突如大音響とともに落橋してしまいます。早朝の出来事だったので人の被害はありませんでしたが、赤字経営の橋でしたから橋仲間に再建の意志はまったくなく、廃橋の運命にありました。しかし柏原は「一刻も早く新しい橋を架けなくては」とまたも一人で再建に乗り出しました。南向村（中川村）大草の大工・間島美代吉に8,700円で引き受けてもらい、翌9年12月25日に完成しました。柏原はさらに借金を背負うことになりました。

このころから道路法によって、橋は公共団体の管理となり、河野村・山吹村の管理のもと、柏原が経営にあたりました。橋銭は大正14年末までとり、翌年から無銭橋になりました。無銭橋になった大正15年1月1日、河野・山吹両村長から柏原に表彰状が贈られました。



万年橋と柏原市蔵（当館所蔵）

表彰状

天竜川架橋万年橋ハ先年
君等率先シテ有志ノ醵金ヲ
以テ架設シ 其後 君独力以テ
管理運営シ 交通ノ便ヲ得セシメ
タリシモ 道路法実施ニヨリ両村管
理ニ属スルニ至リタリ 将来交通ノ
便宜ヲ思フト 君ノ徳ハ永遠ニ
滅セザルベシ 茲ニ木杯壺組ヲ贈呈
シテ之ヲ表彰ス

大正十五年一月一日

山吹村長 平沢和三郎 ①
河野村長 芦部三重 ②

柏原市蔵 殿

（柏原祐子氏提供）

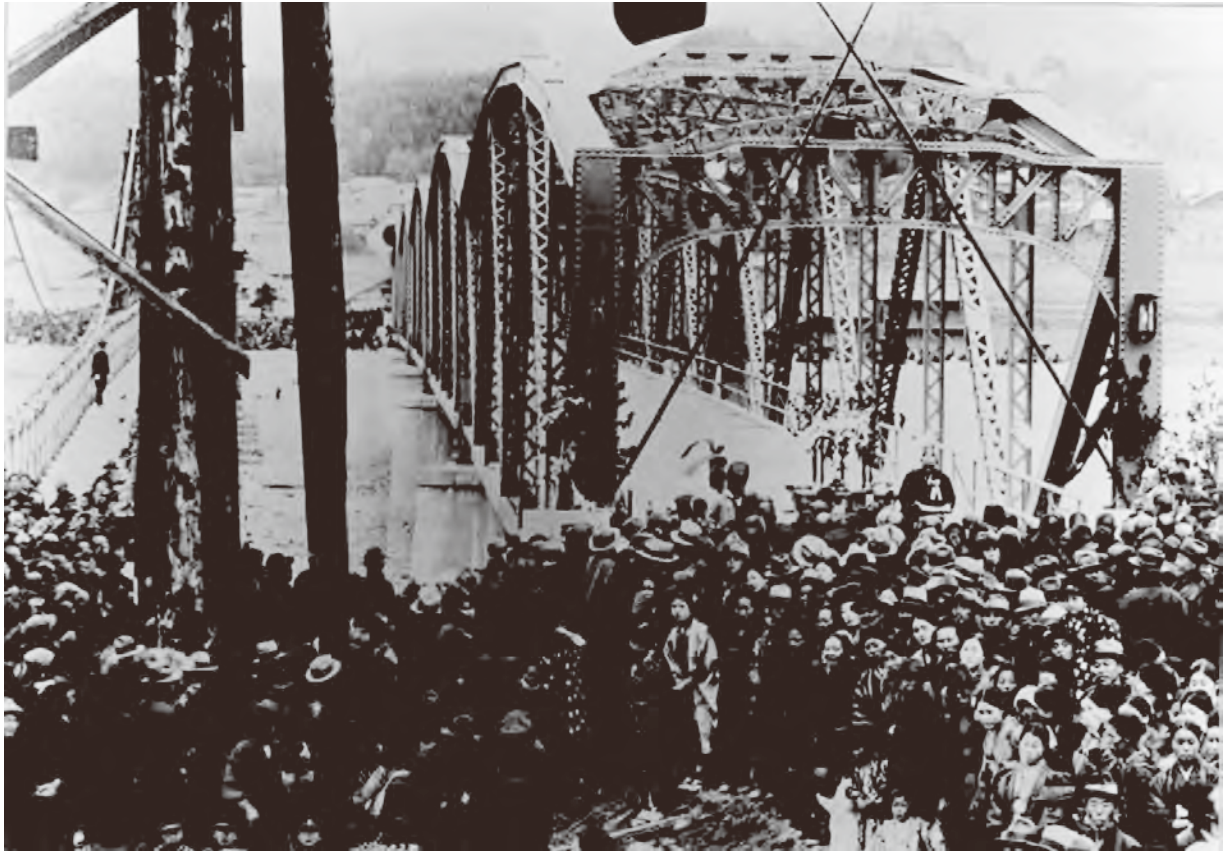
それにしても、生涯にわたる借金を背負ってまで架橋を維持しようとした柏原の思いはどのようなものであったのでしょうか。それを示す資料は見つかっておらず、また子孫の方に尋ねても聞き伝わっていないとのことでわかりません。天竜川の東と西の行き来を楽にさせることに人生をかけた生き方でした。

〈参考文献〉・『豊丘村誌下巻』

・『高森町史下巻』

・林登美人「竜ノ口渡船と万年橋」（『伊那』2012年3月号）

・『神稲人物誌』



2代目明神橋の開通式に訪れた人々（左に初代明神橋が見える）

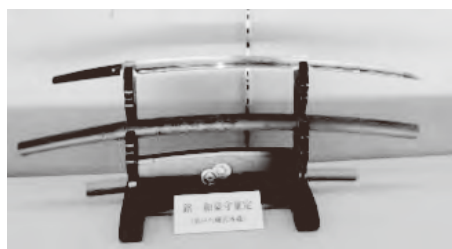


3代目万年橋（昭和34年）

✧
✧
✧
令和7年度の記録
✧
✧
✧

		利用団体名称と人数
4月	町内	滝里歌会(7) 花とあそぼ(26) 高森自由大学(30) 資料館運営委員会(4) 松岡城址愛護会(4) 美人画教室(3) 牛牧歌会(4) 源氏物語講読会(8) 資料館調査委員会(11) 古文書研究会(16) ひだまりの会(5) 布喜の会(7) 木鶏の会(8) 高森町史を読む会(14) 高森町史学会総会(17) 音読の会(5) 資料館事業説明会(5) 白夜短歌会(7) きさらぎ会(6) 天理教ボランティア(9) 高森キッズサイエンス(30) 松岡城址新緑の会(2) 高森BC(15)
	町外	修学旅行生(7)
5月	町内	わかば勉強会(8) 滝里歌会(8) 短歌歩道の会(6) 刀剣手入れ(6) 刀剣が語る歴史研究会(6) 高森町史学会研修旅行(34) 牛牧歌会(6) 木鶏の会(6) 高森町史を読む会(11) 音読の会(6) 高森町9条の会(19) 高森BC(30) 資料館活用委員会(6) 白夜短歌会(7) 古文書研究会(16) 高森キッズサイエンスクラブ役員会(5) きさらぎ会(6) ひだまりの会(4) 源氏物語講読会(6)
	町外	修学旅行生(9)
6月	町内	資料館調査委員会(11) たんころりん(2) 源氏物語講読会(12) 市田漁協(5) 白夜短歌会(8) 松岡城址愛護会役員会(5) 北小3年生(15) 北小6年生(20) ひだまりの会(3) 牛牧歌会(6) 刀剣が語る歴史研究会(13) 音読の会(6) 滝里歌会(8) 短歌歩道の会(6) 古文書研究会(14) 高森町史を読む会(15) 高森自由大学(34) わかば勉強会(8) 木鶏の会(6) 井上井月の会(7) きさらぎ会(5) 飯伊建設労連(36)
	町外	修学旅行生(11)
7月	町内	高森町史を読む会現地学習(13) 高森自由大学役員会(5) 源氏物語講読会(13) 木鶏の会(6) わかば勉強会(6) 南小6年生(100) 資料館活用委員会(5) 古文書研究会(16) 音読の会(7) 大人の体験講座(6) 高森キッズサイエンス(45) 短歌歩道の会(6) 役場ワークショップ(30) 夏の親子体験教室(45) 中学生職場体験(3) ひだまりの会(6) きさらぎ会(6) 牛牧歌会(7) 滝里歌会(6) 古文書研究会研修旅行下見(6) 時の駅講座①(23) 刀剣が語る歴史研究会(4) 高森町史学会正副会長会(3) 教育委員会研修会(18) 北小職員研修(12) 白夜短歌会(11)
	町外	追手町小3年生(29)
8月	町内	高森自由大学(18) 時の駅講座②(16) 高森自由大学役員会(2) 白夜短歌会(9) 木鶏の会(8) ひだまりの会(5) わかば勉強会(6) 牛牧短歌会(6) きさらぎ会(6) 高森町史学会幹事会(7) 高森町史を読む会(13) 古文書研究会(14) 夏の親子体験教室(16) 松岡城址愛護会役員会(6) ナイトミュージアム(26) 滝里歌会(9) 高森キッズサイエンス(50) 高校生インターンシップ(2) 大学生インターンシップ(1) 源氏物語講読会(11) 刀剣が語る歴史研究会(5) 短歌歩道の会(6)
	町外	エコール親愛(18) みらい福祉会(17)
9月	町内	資料館運営委員会(5) 源氏物語講読会(13) 短歌歩道の会(4) 音読の会(7) 白夜短歌会(10) 井上井月の会(3) 南小2年生(90) ひだまりの会(2) 夏の親子体験教室(15) きさらぎ会(6) 刀剣が語る歴史研究会(5) 滝里歌会(9) 高森自由大学役員会(5) 古文書研究会館外研修(12) わかば勉強会(6) 松岡城址愛護会役員会(5) 高森町史を読む会(15) 資料館調査委員会(10) 教育委員会(2) 牛牧歌会(6)
	町外	下伊那考古学談話会(16) みらい福祉会(17)

皐月の空の鯉幟



「寺社に奉納された刀剣」展

追手町小3年校外体験学習



		利用団体名称と人数
10月	町内	音読の会(6) 高森キッズサイエンス(39) 高森自由大学(33) わかば勉強会(6) 滝里歌会(8) 松岡城址秋の陣(43) 源氏物語講読会(8) きさらぎ会(4) 高森中1年生(22) 白夜短歌会(8) たんころりん(2) 松岡城址愛護会役員会(6) 刀剣が語る歴史研究会(8) 大人の体験講座(26) 高森町史を読む会・高森町史学会合同史跡巡り(25) 古文書研究会(13) 土器焼き(3) 牛牧歌会(7) 短歌歩道の会(6) ひだまりの会(3) 南小4年生(87) 北小4年生PTA(21) 資料館委員研修視察(12)
	町外	シニアクラブ連合会(29) 小特教頭研修会(45)
11月	町内	高森町史を読む会(16) 音読の会(5) ひだまりの会(2) 下市田史談会(10) 花とあそぼ(25) 滝里歌会(9) 時の駅講座③(21) 木鶏の会(7) 刀剣が語る歴史研究会(4) わかば勉強会(6) きさらぎ会(6) 牛牧歌会(5) 古文書研究会(13) 高森自由大学役員会(6) 短歌歩道の会(5) 源氏物語講読会(13) 白夜短歌会(10) 湯沢会合(2)
	町外	なし
12月	町内	高森自由大学(30) 気学の会(14) 牛牧歌会(5) 源氏物語講読会(9) 高森町史を読む会(15) 短歌審査会(4) きさらぎ会(6) 短歌歩道の会(9) 刀剣が語る歴史研究会(4) 滝里歌会(11) 古文書研究会(14) 高森町史学会幹事会(9) ひだまりの会(2) 白夜短歌会(9) 音読の会(4) グランスマイル(4)
	町外	なし
1月	町内	高森町史を読む会特別講演会(58) 松岡城址愛護会役員会(7) 牛牧歌会(7) 井上井月の会(4) 古文書研究会役員会(5) 源氏物語講読会(7) 滝里歌会(6) ひだまりの会(3) きさらぎ会(4) 小正月飾り作り教室(30) 資料館調査委員会(11) 白夜短歌会(8) 高森キッズサイエンス(38) 高森自由大学役員会(6) 古文書研究会(13) 下市田保育園(15) 刀剣が語る歴史研究会(8) 短歌歩道の会(7) 気学の会(7) 高森BC(21)
	町外	なし
2月	町内	木鶏の会(5) 牛牧歌会(7) 詩歌フォーラム表彰式(59) 源氏物語講読会(11) きさらぎ会(6) 資料館活用委員会(5) 南小3年生(87) 短歌歩道の会(9) ひだまりの会(3) 白夜短歌会(10) 滝里歌会(10) 高森町史を読む会(15) 古文書特別研究会(32) 北小3年生(14) 気学の会(3) 市田柿フォトコンテスト表彰式(28) 刀剣が語る歴史研究会(4) 音読の会(6) 布喜の会(13) 高森自由大学(23)
	町外	なし
3月	町内	資料館運営委員会(4) 滝里歌会(8) 大人の体験講座(15) 短歌歩道の会(8) 花とあそぼ(20) 資料館調査委員会(10) 木鶏の会(7) 牛牧歌会(2) 白夜短歌会(8) 高森町史学会幹事会(12) 布喜の会(12) 源氏物語講読会(11) 音読の会(6) 古文書研究会(13) 高森町史を読む会(13) 刀剣が語る歴史研究会(4) 気学の会(9) 松岡城址愛護会役員会(7) 干支のつるし飾り教室(21) ひだまりの会(4) きさらぎ会(6)
	町外	ルーテル幼稚園(11) 松川町社会福祉協議会(92)



下市田保育園児見学

県立歴史館への展示品貸出



高森町史を読む会現地学習



入館者数：令和7年度及び昭和54年11月の開館以降の累計 3月31日締

★令和7年度	8,158名（町内 6,992名 町外 1,166名）
★開館以降の累計	299,870名（町内 236,017名 町外 63,853名）

令和7年度資料寄贈者御芳名

品名	寄贈者	品名	寄贈者
写真多数	下市田 伊藤雄基	戦死した叔父倉沢武氏の手紙・写真他	下市田 倉沢千穂子
木目込み人形「大將軍」	飯田市 吉川千鶴子	文机	狭山市 上田紀子
大槻四郎画伯の絵画・掛軸	御前崎市 池田那緒美	橋銭の看板	(株)こもれば
大槻四郎画伯の絵画	飯田市 武田昌子	林 龍峽 書一幅	飯田市 奥村利一
故林匡雄氏葬儀の弔辞・誄詞	飯田市 太田志保里	満州国帝制樹立記念盃	下市田 中村忠敬

寄贈本一覧

下市田公民館『災害の市田郷』他	吉田広子	倉田雅子『畑のなかのお墓』	倉田雅子
-----------------	------	---------------	------

寄託資料

明治期の土地台帳（牛牧区）一冊	木村重臣	武田耕雲斎の刀剣3振り、素懐書	原晃一
竹中家甲冑・陣笠、明治期の書物他	原光子		

資料館からのお知らせ

古文書・古い資料を捨てないで資料館にぜひ一報を！ なつかしい昭和の物も！

◆皆さんのお家に眠っている古文書類などの古い資料は、歴史を解き明かす大事なものです。江戸時代・明治時代の古文書類はもちろん、古い書籍、写真、軍事郵便などの戦前の資料等々捨てる・燃やす前に資料館へご一報ください。また資料館では、最近「戦後の昭和」の物も収集しており、ワープロやファミコンなどの寄贈をうけました。寄贈ではなく「寄託」という方法もあり、切手展を開催することができました。懐かしい物を見ながら、若き日の話に花を咲かせるのはいかがでしょうか？

編集後記

今年度も特別展や企画展、時の駅講座などの活動が計画通りできたこと、また親子体験教室やナイトミュージアム、大人の体験講座も多くの皆様ご参加くださったことは何よりであったと思います。特に今年度は、特別展「戦後80年 戦争体験の継承について考える」に1,400人近い見学者を迎えたことで、「継承の意味」を考える機会になったと思います。

また当館の展示物から登場した「付喪神（つくもがみ）キャラクター」が知られるようになったことで、子どもの入館者が増加しました。近々累積入館者が、30万人を超える見込みです。より多くの皆様に愛される資料館をめざして努力してまいりたいと思います。（竹内 稔）

